

## 嫉妬心と恐怖心

内藤 真理子

- A 「人間の感情の一番根幹にあるのは嫉妬心ではないかと思うのよ」
- B 「そうかしら、私は恐怖心のような気がするわ」
- A 「えー、恐怖心？ 私はもし神様が人間の感情を造つたのだとしたら、その一番の傑作が嫉妬心だと思う。他人に負けるのが悔しいから努力をするし、羨ましいと思うから一步上を目指すでしょう」
- B 「人は恐怖心があるから悪事をしてはいけないと思うし、明日困ることを恐れて儉約をするでしょう、村八分にされたくないから周り仲よくしようとも思う。やはり人間の感情や生き方を支えているのは恐怖心ではないかしら」
- A 「例えば、すごい美人がいるとするでしょう、美しいものは見ているだけで楽しいじゃない、でもそこに嫉妬心が作用するから陥れようと思う人が出る。と、美人だけど気が強い、美人だけど誰にでも靡いてだらしがない、美人だけど傲慢だ、等と単純に美人に安住してられない複雑さが発生するでしょう」
- B 「恐怖心があったら美人に安穩としてはいられないわ。年と共に美貌は衰えるだろうし、中にはそれこそ嫉妬深い人もいるかもしれないから注意を怠るわけにはいかない。だから美人に甘んじていないで鎧を着たり、媚びてみたり、虚勢を張ったりするのよ」
- A 「ほらごらんなさい、嫉妬心は人の気持ちをかき乱して、より複雑に喜怒哀楽を醸造するでしょ」
- B 「でもそれは感情の根幹にあつたり、一番傑作だったりはしないわ。恐怖心があるから品格が生まれるとは思わない？」
- A 「私は嫉妬心の中でも、相手を陥れようとするエネルギーが大いなる活力を生み出す優れもので、人の人生を左右する原動力にもなるのだと思うわ」
- B 「恐怖心だって、身を守る為には人を陥れようと画策することも辞さないけど、れっきとした理由があるのだから、少なくとも下品ではないわよ」
- A 「ねえ、それって、アクティブとネガティブの違いで同じことを言っているのじゃないかしら」
- B 「人間性の問題じゃないの！」

(ある会話)